



今後の取組方針について(案)

令和4年4月
政策統括官付

これまでの取組み状況

○バリアフリー・ナビプロジェクトでは、歩行空間ネットワークデータ等整備仕様作成や、自治体におけるデータ整備促進のためのガイドライン及び手引きの作成、事業者や住民等を含む多様な主体の参加によるデータ整備・更新手法とデータの信頼性確保に向けた方策の検討等の取組みを進めてきた。

～H28年度

H29年度

H30年度

R1年度

R2年度

R3年度

歩行空間NWD等整備仕様の作成

- ・歩行空間NWD整備ツール作成(H28)

歩行空間NWD等整備仕様改訂に向けた検討

歩行空間NWD整備
ツール改修

自治体における歩行空間NWDデータ整備促進

- ・歩行者移動支援の取組みに関するガイドライン作成 (H28)
- ・効率的な歩行空間NWD整備に関する手引き作成 (H28)(R2改訂)

アイデア・コンテ
スト開催

多様な主体の参加によるデータ整備促進

- ・効率的な参加者募集方法、投稿促進のインセンティブ検討(H30)
- ・教育・福祉分野との連携に関する検討
→ バリアフリー情報収集に向けた教育プログラム作成(R3)

投稿、センシング技術等によるバリア情報収集方法検討

- ・プローブ、センシング、投稿情報を活用した整備手法検討(H29)
- ・センシング技術動向調査(H30、R1)

センシング技術を用
いたバリア情報取得
方法の検討

継続的なデータ更新・信頼性の確保検討

- ・電子納品を活用したNWD整備手法の検討(H29)
- ・オープンデータの更新・評価のあり方の検討(H30、R1)

データ整備・更新に
向けた多分野の協
働可能性検討

歩行空間ネットワークデータ等のオープンデータ化促進

- ・歩行者移動支援に関するデータサイト開設(H28)
- ・オリンピック・パラリンピック競技場周辺のデータ整備(H29～R2)、神奈川県、事業者保有データの公開(R2)

これまでの 取組結果

- これまで、オリパラと連携した情報発信をはじめ、データ整備に協力的意欲的な団体に対する公認シール・ステッカー配布、アイデアコンテスト、メールマガジンやSMS等を用いたニュースバリューの高い情報発信などを通じて、サービスの認知度拡大やデータ整備を促進。
- 一方で、コロナ禍によるユーザの行動変容等に対応するため、バリアフリー情報の新しい活用方策や、ユーザ拡大に向けた一層の認知度向上策を講じる必要。

課題

- 歩行空間ネットワークデータは、バリアフリー以外に防災や自動走行ロボットによる配送など多様なサービスに利用できる可能性があり、様々なユーザを想定したデータ提供環境の整備が必要。
- 特に新型コロナウイルス感染症の影響で外出機会が減少したことで自動走行ロボットによる配送ニーズが増加しており、自動走行ロボットへのデータ利用可能性の検証が必要(検討テーマ①)
- 自動走行ロボット等多様なサービスへ利用するため、データの整備範囲の拡大や情報の精度確保に向けて、効率的にデータ整備・更新が行える環境が必要(検討テーマ②)
- より幅広い層へのサービス展開や認知度向上に向けて、バリアフリー・ナビプロジェクトの継続的な周知が必要(検討テーマ③)

■ 今後の方向性

検討テーマ	主な検討事項
①多様な分野におけるデータ利用促進	➤ 自動走行ロボットの運行に向けたデータ利用、地域展開
②効率的なデータ整備・更新環境整備	➤ スマートフォン搭載のセンサーを用いたバリアフリー情報収集 ➤ 教育分野との連携によるバリアフリー情報収集の全国展開
③バリアフリー・ナビプロジェクトの周知・広報	➤ アイデアコンテストをはじめ、動画コンテスト、シンポジウム等のイベントの企画・開催